

モデル事業名	わかもの 若者づくり・まち づくり事業
活動団体名	特定非営利活動法人 ほかけ
ホームページ	
所属/ 担当者名	事務局長 のま かつみ 野間 克実
連絡先	01457-4-7100
活動地域	ほっかいどうさるぐんびらとりちよう 北海道沙流郡平取町

● 活動地域の概要



【位置図】



【過疎化の進む 平取町振内地区】

主要地区人口推移				
	H19年	H20年	H21年	増減
本町地区	3,831人	3,765人	3,686人	-3.78%
振内地区	1,137人	1,119人	1,059人	-6.28%
貫気別地区	924人	891人	848人	-8.25%
町全体	6,067人	5,942人	5,819人	-4.09%

本町地区：川向、紫雲古津、去場、荷菜、本町、小平、二風谷
振内地区：長知内、幌毛志、振内
貫気別地区：荷負、貫気別、旭、芽生

人口は昭和35年の13,300人をピークに現在は、6,000人を切るまでに減少している。本町地区と呼ばれる行政・経済の中心集落のほか、振内、紫雲古津、小平、二風谷、貫気別、豊糠などの人口数十人から数百人の集落が点在し、それらの集落ではさらに過疎化は進行し、地域コミュニティの存続すら危ぶまれている。特に、平取町振内地区はかつてはクロム鉱山や林業により、国鉄、営林署、製材工場などで栄えた町であるが、昭和三十年代後半からそれらの産業は急速に撤退し、ピーク時の人口の三分の一程度まで減少した。また、数年前より中心地域の転出が進み、過疎化は一気に速度を増した。

そんな状況下で、町の施策として定住宅地の分譲、新規就農者支援、山村留学などの移住・定住促進事業により一定の効果は上げているものの、過疎化の速度に追いつけていない。

● 活動地域の課題

当該地域においては以下の課題がある。

1、地域住民の意識に関する課題。

過疎化が進行していることに対する危機感が高くない。過疎の町だから仕方が無いという諦めが蔓延している。また新しい問題解決の方法を簡単に受け入れることができない。

2、地域環境（特性）に関する課題。

生活することに精一杯で地域活動に取り組む余裕が無い住民が大半。空白の世代（その世代が地域にいない）がある。高齢者が健在であり、次の世代に町づくりを引き継いでいない。

3、地域外部の視点・連携に関する課題。

地域外との連携から地域の問題を解決した経験を持たない。地域外からの視点で地域の資源・価値を再認識したことがない。

最後に、最大の課題は既に地域のみでは再活性化が図れないという状況になりつつあることである。

● 活動の内容

（全体）

① 地域住民とよそ者（移住者）による新たな地域づくり（地域住民が新たな地域づくりに参加する活動）

毎回テーマを決めて、地域づくりの進め方を話合う、まちづくり実践塾を開催した。まずは、「自分達の手で地域を活性化することができる。」「自分たち自身が考え、行動しなければならない。」ということ意識として、

もってもらえることが大事だと考えた。そのため、地域づくりで有名な先生、大学の教授、都市の大学生等の外部の方との講習やワークショップを実施した。

② 都市の若者による地域づくり（都市の人が地域を知る活動）

都市の大学生と地道にやりとりをし、都市の若者を地域で迎えて地域住民との交流会を実施した。交流会を運営するために、準備段階から学生達に地域に来てもらい、地域の様々な団体や機関と交流し、「地域（田舎）」を体感してもらった。

③ コミュニティ・サイトの制作（地域（田舎）から都市へ情報を発信する活動）

都市の情報は新聞やテレビ、雑誌などを通じて地方にも届けられるが、地方の情報が都市に届けられることは多くないとの都市の方々からの指摘を受けて、コミュニティ・サイトを制作した。このサイトの運営は、都市の業者に委託するのではなく、地域住民がサイトの作り方や更新の仕方を学び、自分たちの手によって作成、更新できるようにした。

（直近1年間の進捗など）

この事業によって昨年制作したサイトに、現在、町内外の方々から1日200件以上のアクセスがある。このサイトを通じて新しい地域づくりの仲間と情報交換、交流が進んでいる。

● 活動の成果

・全体

地域の人の視野を広げ、地域づくりに対する思いを新たにすることで「地域住民の意識に関する課題」を乗り越えることができた。役場ではない民間が中心となり、自らの手によって地域活性化ができるのだという現実を目のあたりにしたことで、地域の若い層の「自分達で地域を活性化しよう！」という気運が高まった。

今回の事業で地域に都市の若者を多く受け入れることができた。また、企画段階から地域の様々な人達と打合せや調整をすることで、地域（田舎）の現状を深く感じてもらった。学生達にとって、すんなりとはいかなかった筈だが、「自分も自分の親やその親も都市で生まれ育っているため、自分には田舎が無い」「今回のことをきっかけにここを自分の田舎だと思ってときどき遊びに来てもいいですか」等の声が上がった。こういった声を地域の人々が耳にすることで、地域の潜在的な可能性にどんどん気付いていくことができた。

このように、地域の住民が、有識者の視点と都市の視点で地域を深く見直すことによって、自らの手による地域づくりを行うきっかけとなり、都市の若者にとっても、地域（田舎）を深く知ってもらえることができた。また、これらの意識を持った人達を繋げるために、インターネットを使ったサイト（ホームページ）を立ち上げた。



【有識者や大学の教授と都市の学生が参加したワークショップの様子。今後の活動の基礎となる。】



【都市の学生と地域との交流会で、学生が制作した雪のすべり台。地域との交流が深まった。】

・直近1年間の成果など

今年は、岡山県の地域おこし協力隊の方々平取町に来ていただいて交流会を開催した。来年度に平取町が行う予定の地域おこし協力隊事業の参考にさせてもらうとともに、お互いが連携していくことにより、よりよい効果を出せる事業にしたいと思う。作成したサイトを通じて着実に交流の輪が広がっている。



【当団体が作成したホームページ。今後、地域住民と都市住民との交流に使用する。】

● 今後の課題及び展望

・課題

地域において地域づくりをする若者が不足している。新しい地域づくりには、若者（この地域の若者とは30代～40代のこと）の力が必要であるが、この世代は最も多忙な世代でもある。冬の活動には積極的に参加しても、農繁忙期の協力は難しいのが実状だった。よって、この時期を地域外の人達によって地域づくりをする仕組みを考えなければならない。

・展望

まちづくり実践塾のワークショップで決めた「年間の移住者を3組以上確保する」という地域が共有できる新たな目標に向け、振内地区で組織的に新規就農者を誘致する会を立ち上げて活動を展開していく。

また、集落支援員制度や来年度、平取町が実施する地域おこし協力隊とも連携して、生活支援や活性化イベントの展開、交流・観光事業、物販事業などにおいて資金づくりを行うことを検討している。